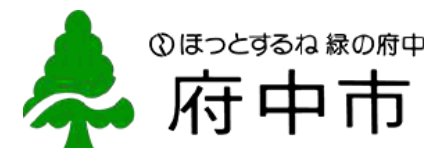


地域支援事業における地域の社会資源の活用と庁内連携に関する 調査研究事業報告会



事例①

民間連携 事例紹介

習慣化アプリ「みんチャレ」を 活用したフレイル予防事業

令和6年3月15日

府中市 福祉保健部高齢者支援課



習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した府中市フレイル予防事業

府中市について



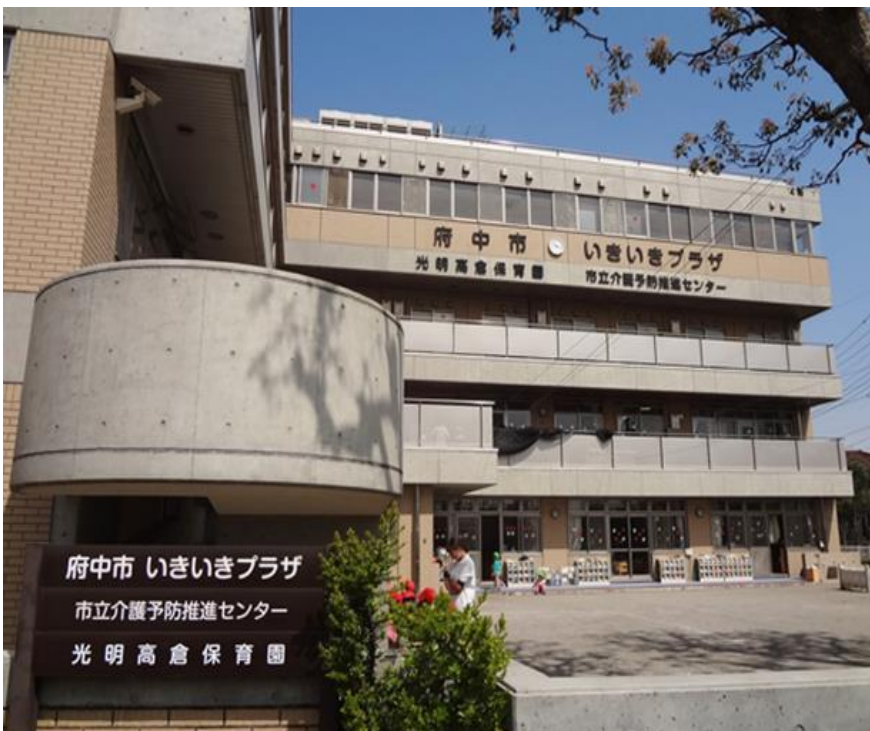
新宿から京王線で
約 **20** 分

人口約 26 万人

- 昼間人口：約25万人
- 夜間人口：約26万人
- 高齢化率：21.6%
- 要介護認定率：19.6%



特徴① 介護予防推進センターの先駆け



平成18年

全国に先駆けて介護予防推進センターを設置

施設職員は研究熱心で、
フレイル予防やオンラインの活用など積極的に実施

介護予防推進センターと地域包括支援センター
(市内11カ所)に介護予防の専任担当として
**介護予防コーディネーター(KC)を各
1名配置**

市とKCにて月1の定例会議を設け
相談しながら地域の介護予防を推進中



「元気一番!!ふちゅう体操」
イメージキャラクター ひばピー

特徴② 市民協働都市



平成26年に

市民協働都市宣言

駅前に、協働の拠点として
「市民活動センタープラッツ」を開館



習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した府中市フレイル予防事業

取組前の課題と背景

行政課題:フレイル予防

コロナで
通所も困難に

~~通所~~

介護予防推進センター
地域包括支援センター



卒業

~~自主グループ化~~

市民同士の自主的な介護予防グループ

~~自主的な
介護予防活動~~

これまでのコロナ対策

教室の人数を
減らして実施

参加者減少

自宅のできる
宿題+通所

参加者減少

YouTubeや
LINEを活用

高齢者は利用困難

このままでは、高齢者の健康が大幅に低下

高齢者QOLの低下、社会保障費増大の懸念

関東経済産業局「ガバメントピッチ」

関東経済産業局「自治体×ヘルスケア関連ベンチャー企業等共創プログラム」

ガバメントピッチ

～「自治体×ベンチャー共創」に向け、自治体が地域課題・ニーズを発信～

2020年
10月27日(火) 10:00～12:00
オンライン開催

「ガバメントピッチ」では、ヘルステック等を活用した官民共創に意欲的な自治体が、ベンチャー企業の皆様に向けて、共に取り組みたいヘルスケア分野の地域課題・ニーズをプレゼンします。
後日、ご聴講いただいたベンチャー企業の皆様から、登壇自治体に向けた共創提案を受け付け、事務局を通じたマッチングを実施します。
自治体との共創にご関心をお持ちのベンチャー企業の皆様、ぜひご聴講ください。

自治体 (登壇者)	ベンチャー企業 (聴講者)
 自治体 (登壇者) “ヘルステックを活用して 解決したい地域課題や ニーズ”をプレゼン ※藤枝市は先行取組報告	 ベンチャー企業 (聴講者) プレゼンを聴講後、登壇自治体に ヘルステックを活用した共創を提案 ※共創提案は、後日募集します。

関東経済産業局「ガバメントピッチ」 資料

府中市におけるヘルスケアテーマ

介護予防**自主グループ**化で
市民同士が「**つながる**」介護予防

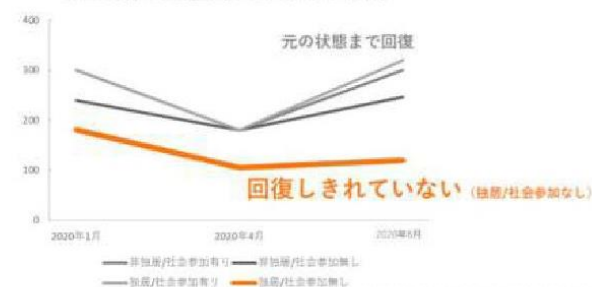
府中市の高齢者の社会参加状況



なぜ「自主グループ」？

社会参加（人とのつながり）がある方が、身体活動が多い

身体活動の回復状況【1週間の身体活動（分）】



共創イメージ



高齢者の
「社会参加・つながり」

超高齢社会日本から、世界に
「幸せな老後」のイノベーションを

習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した提案を選定

25社から提案をいただき、
府中市が重視する「**市民同士がつながる介護予防**」
を実現できると考え、みんなチャレを選定

$$\frac{1}{25} = \text{みんなチャレ}$$

習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した府中市フレイル予防事業

取組内容

ソリューション



みんなでチャレンジ



同じ目標の仲間同士、
5人1組のチームに参加！



その日撮影した写真と一緒に
歩数をチームに報告！



続けて貯めるコインを
地域の社会貢献活動に寄付！

寄付プロジェクト(社会貢献インセンティブ)



[第3回]
[コロナ対策支援]
食料に困窮する大学生を応援しよう

50000 コインで1人分の食料支援が寄付されます。
全体で200人分の寄付を目指しましょう。

113 / 200 人

6500 / 50000 コイン

100コイン ▼

寄付する

コインが不足しています。100 コインから寄付できます。

0 コイン寄付済み 77 コイン所持

1人1500 コインまで寄付できます。

プロジェクトの概要

【協力：府中市、フードバンク府中】

【協賛：明治安田生命保険相互会社】

寄付を実施しました！



明治安田生命様からフードバンク府中様への寄付実施

多くの皆様にコインを寄付いただき目標を達成することができました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

府中市では、ご協賛いただいた明治安田生命保険相互会社様からフードバンク府中様へ寄付を実施いたしました。



フードバンク府中様でのフードバンク実施の様子

アプリを続けて
貯めたコインで
地域貢献に寄付！

寄付が励みになると
高齢者に大好評！

習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用したフレイル予防

みんなチャレは食事・運動だけではなく、**社会参加を支援！**

食事

バランスの良い
食事を報告



[5,117歩]
今晚はお刺身とサラダ他です。😊

運動

歩数を意識
写真を撮りに
外出



[11,021歩]
みんなチャレのお陰で今まで気づかなかった様々な紫陽花をあちこちで楽しむことができます。
紫陽花って種類が多いですね😊



しっかり、たっぷり歩く
筋トレも！

ちょっとした少しの運動でも継続して行うことで死亡リスクを下げるができます。筋力の低下を防ぐことで、転倒・骨折で寝たきりになるリスクも軽減されます。

〔東京大学高齢社会総合研究機構・熊島勝久 作成：フレイル予防ハンドブックより〕

お友達とおしゃべりや食事を
いつも前向きな気持ちで

特に社会参加の機会が低下するとフレイルの最初の入り口になりやすいことが分かっています。地域のボランティア活動に積極的に参加したり、趣味のクラブに入会したり、自分に合った活動を見付けることが大切です。

社会参加

仲間との励まし合い・
交流



寄付で社会貢献



[食料支援]
食糧に困窮する大学生を応援しよう

「みんなチャレ」アプリ実践講座内容

1回目（1時間半）

- ・みんなチャレアプリとは？（10分）
- ・アプリ体験（1時間）

1週間後



2回目（1時間）

- ・感想 / Q&A（30分）
- ・使い方復習＋応用（30分）
 - コインの寄付の仕方



写真出典：2021年7月13日 日経ビヨンドヘルス記事「「習慣化アプリ」はどこまで高齢者の“心と体”を変えるか」
<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00003/070900215/>

高齢者の実際のやりとり例(みんなチャレを5か月継続中のチーム)



午前中は何時も通り多摩川の土手を歩きました👣。午後はミンチャレ終了後郷土の森へ行きました。



かっちやん
2021/11/15 16:35



先程はみんなに会えて嬉しかったです😊。次回は残念ながら欠席させて頂きます。午前美容院でパーマをかけて、ライフでシクラメンに買ってきました。



みっちゃん
2021/11/15 16:59



ゴンベちゃん
2021/11/15 17:06

今日も良いお天気でした。今はもう日課となった朝のラジオ体操9時からはいきいきプラザで筋力トレーニング終了後はバスで帰り、午後は包括支援センターでみんなチャレの皆さんとお会いして習ったりあ喋りしたり有意義な時間を過ごしました。



ミーちゃん
2021/11/15 19:53

3709歩 午前中包括支援センターで体操、午後にはみんなチャレでメガネズのメンバーに会えて嬉しかったです👍



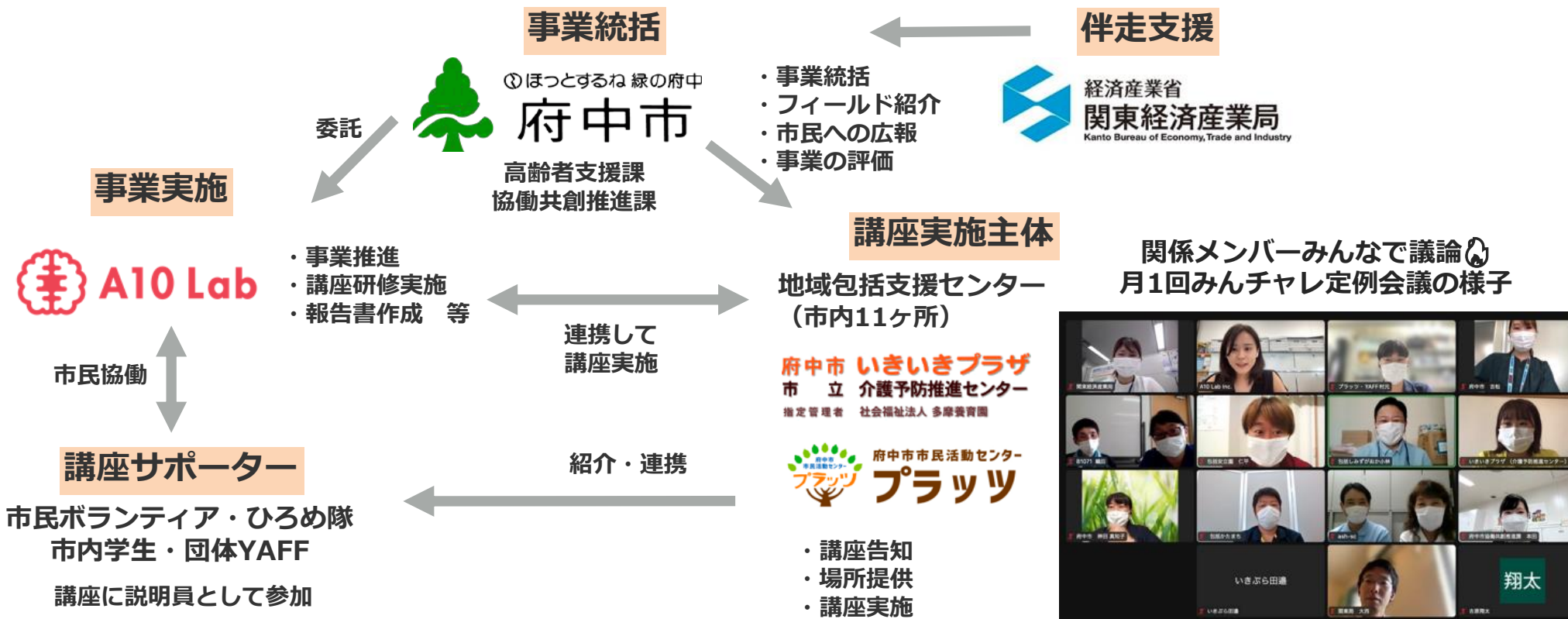
ミーちゃん
2021/11/15 19:53

その日の活動報告や散歩途中の道端のお花などを写真で投稿！

普段はみんなチャレで、たまにリアルで茶話会とオンラインとリアルのハイブリッドな交流を継続中！

実施体制：他組織連携・アジャイルな事業開発

市・地域包括支援センター等・市民・エーテンラボがパートナーとして連携し事業推進！
事業開始（令和3年2月）以降月1回のみんなチャレ定例を継続して
現場から活発に意見を出し合い、事業内容を改善し続けている。



習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した府中市フレイル予防事業

取組の成果

実証の成果（継続率）

累計参加者数 **446名**、現在の継続者数は**182名**（24/1/4時点）
90日間継続率（※）は63%！

※15日以上投稿しないとチームから自動退出になる。実質的な継続率です。

446

累計参加者数

182

現在の継続者数

96%

7日継続率

79%

30日継続率

71%

60日継続率

63%

90日継続率

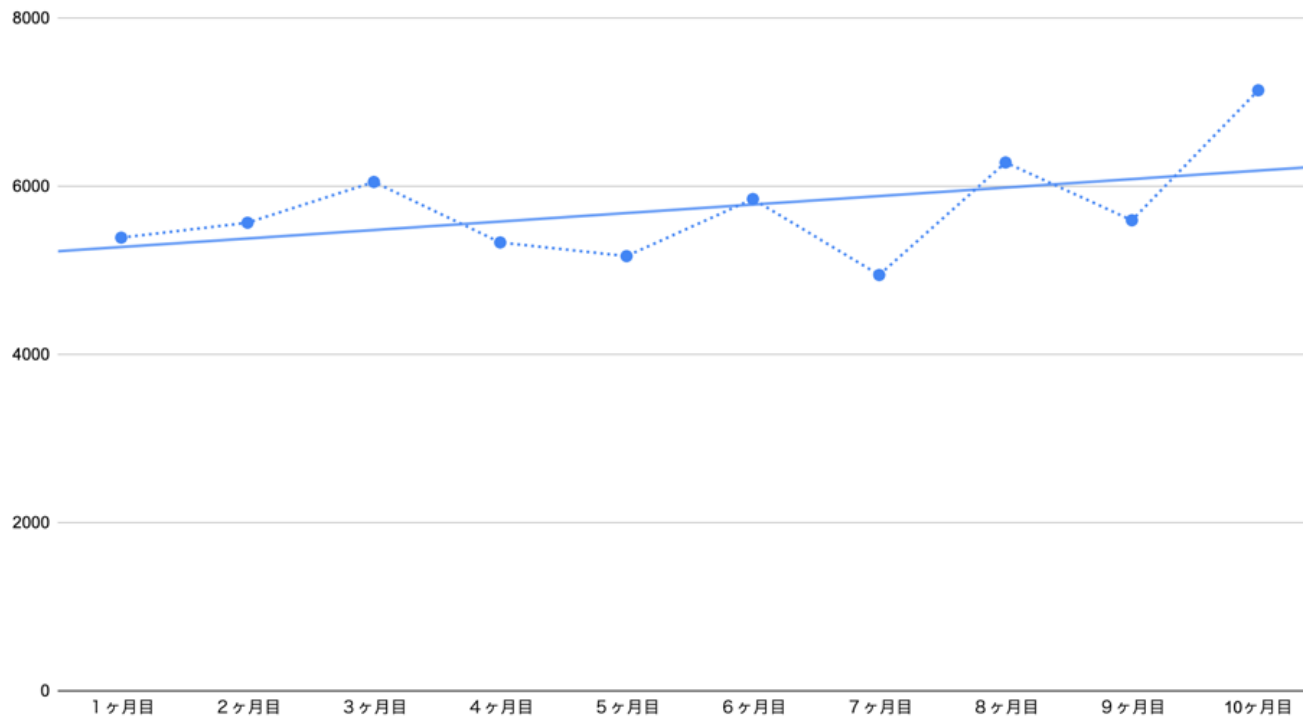
55%

180日継続率

実証の成果（歩数変化）

コロナ禍においてみんなチャレ利用者の平均歩数は、
アプリ利用10ヶ月で1,600歩増加！

府中市チーム：1日歩数（月平均）の推移



実証の成果（参加者の感想）

- **デジタルデバイドの解消**に役立っている！
 - 「LINEだと続かなかったけどみんなチャレをやって、スマホが楽しい！と初めて思えた」
- **孤独解消・市民同士の見守り**ができている！
 - 「一人暮らしなので、みんなチャレやることで楽しく過ごせる」
 - 入院で投稿が途切れた時、チームメンバーから包括に連絡が入り見守りになった！
- **元気な高齢者**が増えている！
 - シニアクラブでの反応がとても良く楽しく活用いただけていることを実感している。



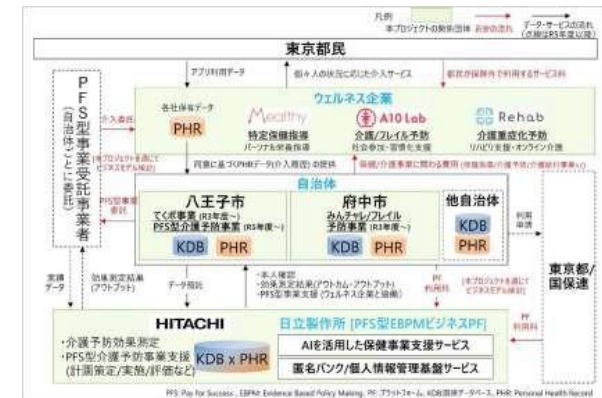
習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した府中市フレイル予防事業

工夫したところ

- **地域での自走化にチャレンジ！**
 - 令和4年度より地域包括支援センターの職員が
みんチャレ講座の講師を担当し、講座を実施
- **参加率・継続率アップにチャレンジ！**
 - 定例会でアイデアを出し合い試行錯誤中
 - 色々な事業等で活用を検討
- **介護予防効果の実証にチャレンジ！**
 - 令和4年度に東京都ウェルネス実証に採択され
みんチャレ利用による介護予防効果をKDBデ
ータと紐付けて試算中。
 - (参考プレスリリース) <https://a10lab.com/news-20220711/>



包括職員が講師を担当



東京都実証の実施スキーム図

利用者の「継続支援」のため、 府中市のみんなチャレ利用者が集う大交流会を実施！

- ・ みんなチャレを使っている75名が参加
- ・ みんなチャレの感想や継続のコツなどをグループで話し合い、楽しく交流。
- ・ 今までにみんなチャレアプリに投稿した写真を募集した写真展覧会も行いました。



令和5年度 みんなチャレ大交流会
表彰状

殿

あなたは府中市の仲間と一緒に フレイル予防の
チャレンジを継続し 自己研鑽されました
ここにその努力を称え表彰いたします
今後もみんなチャレと共に 楽しい日々になりますように

令和5年 11月22日



主体的な実施のため、地域包括支援センター等職員向けに みんなチャレ研修会を年2回実施！

- ・ 現場職員が、事業の改善アイディアを出し合う。
- ・ 職員同士のノウハウやお悩みの共有を行い、理解を深める。



事例②

LINEを活用した見守りサービス

～地域支援事業における地域の社会資源の活用と
庁内連携に関する調査研究事業報告会～

令和6年3月15日（金）

我孫子市 健康福祉部 高齢者支援課
相談係 係長 松本 拓馬
（社会福祉士・精神保健福祉士）



『LINEによる見守りサービス』 をはじめるにあたって...

主な介護者の55%は子ども（息子・娘・その配偶者）...
子どもたちは介護（ケア）を担える状況にあるのか...

高齢化

少子化

独居率の増加

ダブルケア

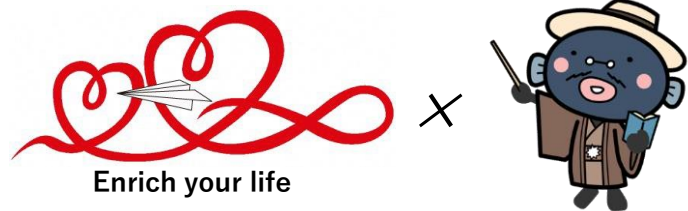
共働き

- 高齢者は増える...子どもの数は減る...介護をする子どもの数が半分になれば、単純に介護の負担は**倍増**...
- そのうえで「子育てとの両立」「共働き」さらに「介護」の負担が上乗せ...

その結果

「介護離職」「介護うつ」「虐待」などに発展する可能性も...

- 介護（ケア）は直接的な介助だけでなく「**見守る**」「**心配する**」も含まれる...**心配**が増えれば在宅での生活をあきらめてしまう...
- だったらせめて「**心配する**」という負担を軽減できないか...「**安心**」に変えられないか...



Enrich your life

LINEを使った「安否通知サービス コネクトハート」

利用者：日常的にLINEで安否確認を受け取りOKをタップする人。

管理者：利用者のOKタップがない場合にLINEで通知を受ける人。

例えば、利用者は単身の父、管理者は離れて暮らす息子さん。

どちらからでも個人情報なしで登録可能

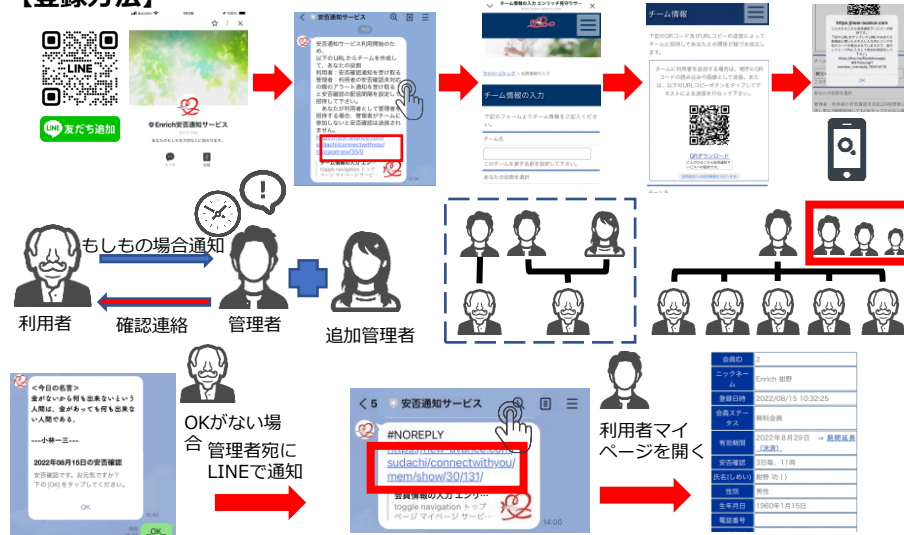


我孫子市×NPO法人エンリッチ

我孫子市が運営するLINEを活用した見守りサービスです。「離れて暮らす両親が心配で…」「ひとりだから、なにかあったらと不安…」「ひとりで暮らす娘が気がかり…」そんな方にはピッタリ！我孫子市にお住まいの方は無料でご利用いただけます。

＊見守ってもらう方（利用者）が我孫子市在住であれば、見守るご家族等（管理者）が市外在住であっても無料でお使いいただけます。

【登録方法】



安否通知サービス コネクトハート	
対象人数	見守り対象者が1名～数百名以上
安否確認通知間隔	毎日、2日ごと、週1回など任意の頻度と時間帯を選択する
安否確認者	※チーム作成時に設定した管理者
安否未確認の場合	24時間後に再送。 更に3時間経過しても確認できない場合チームの管理者へ通知
個人情報の登録	任意
サービス提供方法	LINEのアカウントにシステム提供



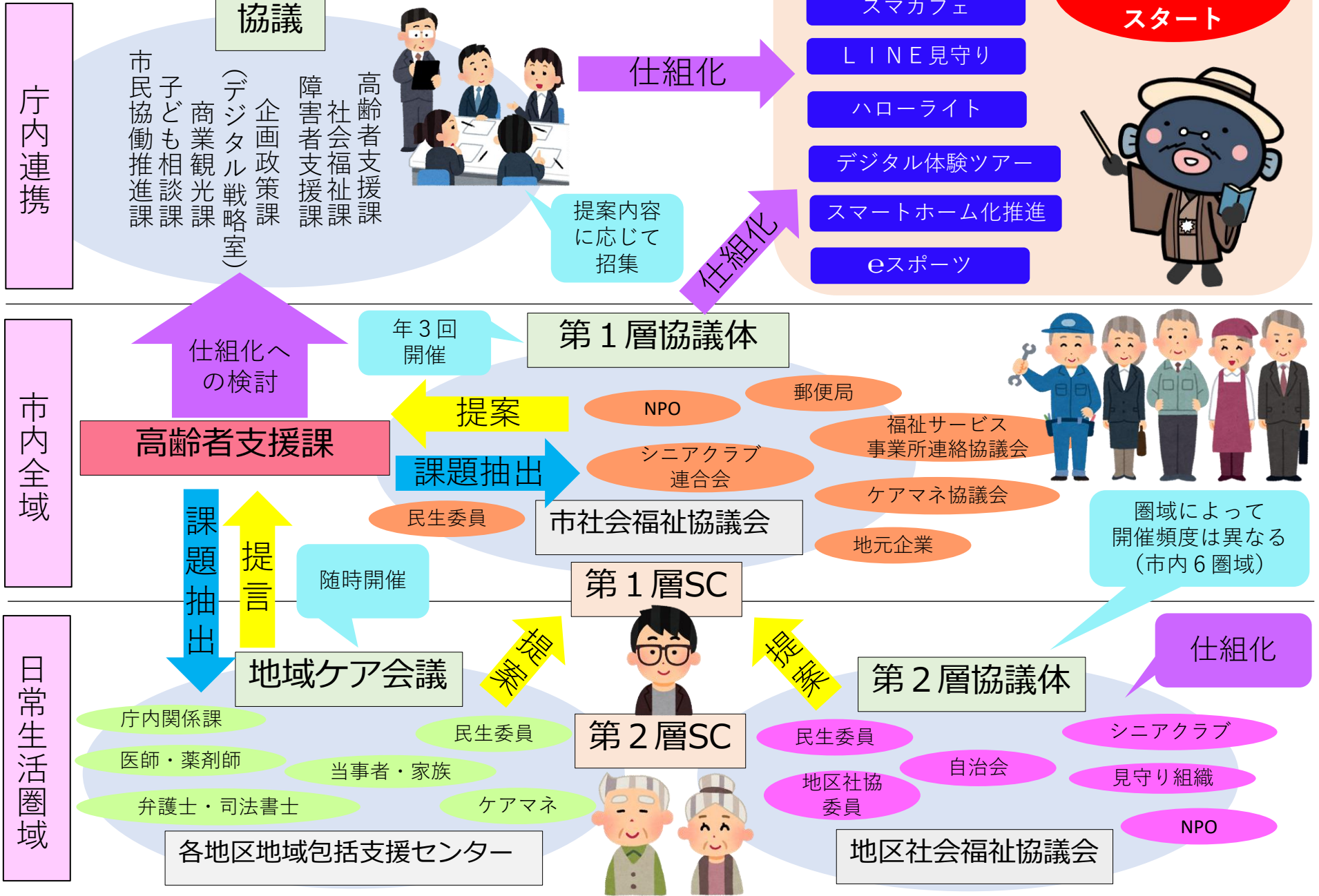
我孫子市
LINEで見守りサービス

〒270-1192 千葉県我孫子市我孫子1858
我孫子市役所

Phone：04-7185-1111

社会福祉課（内線642.394）
高齢者支援課（内線429.413）
障害者支援課（内線350）

仕組化に向けての流れ（連携図）



やってみてよかったこと...



サービス開始当初は、「**家族間の見守り**」を想定...

しかし、地域住民からは「**地域での見守りに活用できるのでは**」というありがたい意見も...

地域の見守り組織から・・・「対面での見守り」と並行して「**LINEによる見守り**」を取り入れたい...

マンション自治会から・・・災害時を想定した安否確認に活用できるかも...

「**LINEによる見守り**」という**ツール**を活用した**地域づくり**へと発展

しつつある...

支援のスキマを埋めていく...



- 介護を担う**家族の数は減る...仕事や子育てとの両立...**

➡ **家族のケア力（支え合う力）は低下...**

これまで家族が担ってきた**ケアは誰が担うのか...**

（通院同行・ゴミ出し・緊急時の駆け付け・見守り・庭木の剪定など...）

では、家族ができないケアを「**公助**」で**賄えるのか...**

- **人口は減る...税金は減る...予算も減る...職員も減る...**

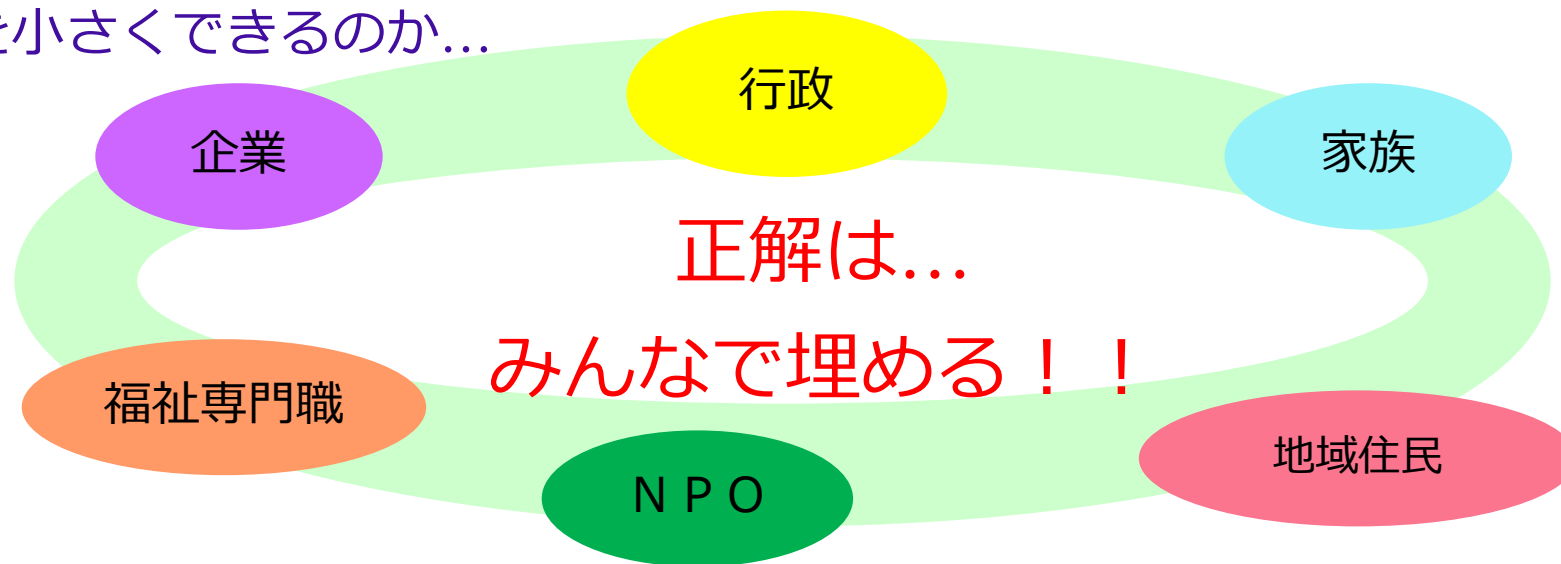
➡ **公的サービスも増やせない...**

「家族もできない」「公的サービスでもできない」ケアが支援のスキマに...

その「**支援のスキマ**」を埋めるのは誰 ???

スキマを埋めるのは誰...

このままではスキマは広がっていくばかり...誰がスキマを埋めるのか...スキマを小さくできるのか...



- 多様な主体が集い、議論するプラットフォームを作る...

多様な主体が集まれば必ず**化学反応**が起きる！

中でも注目しているのが...



企業 との連携...

市と企業が**ウィンウィン**の関係になれば、「**予算ゼロ**」で市民の利益になる仕組みを生み出せる可能性も...

企業との『**連携協定**』によって、さまざまな事業で連携...

「移動スーパー」「終活支援」「LINEによる見守り」などなど...

市内連携の中で、企業等との連携部署（我孫子市では企画政策課）と密に連携することで連携のメリットを最大化する！！

事例③

地域住民と共に考える移動販売の継続



茨城県笠間市保健福祉部
高齢福祉課
地域包括支援センター

①具体的な取組について

- ・高齡福祉課、地域包括支援センター、社会福祉協議会(以下「事務局等」という。)で、生活支援体制整備事業の第2層協議体や関係団体(サロン・高齡者クラブ等)より、地域のニーズ情報の収集を行っています。
- ・令和4年度より商工課と民間事業者との協議の場を年2回設け、移動販売ルートの見直しを年1回実施しています。
- ・移動販売ルートの確定後、新たな販売所近辺で活動している団体等を訪問し、移動スーパーを実施する案内とチラシの配布を行っています。

②協議体制について

- ・事務局等の担当で打合せを毎月実施しています。年2回程度、商工課と民間事業者も打合せに参加してもらい協議を行っています。
- ・年2回の協議について(1回あたり約2時間程度実施)
 - 1回目: 民間事業者より見直したい販売所・検討先地域等の情報を提供してもらいます。
 - 2回目: 事務局等から販売所候補地や利用者からの意見等を報告し、販売所の選定を行っています。

③取組の成果について

- ・利用者の変動もあり完全に赤字を解消することは難しいですが、販売所の見直しを行った結果、事業継続基準以下の販売所の割合を約6割から約4割へ下げることができました。
- ・利用者の活動時間に合わせてスケジュール設定ができたため、
「遠出しなくても買い物をして帰ることができるのがいい。
「重い物を近所で購入できるのはありがたい。」
といった意見が利用者より寄せられています。
- ・これまで販売車の停車時間は5分と短く、利用者より停車時間の延長を求める声が多いことを民間事業者へ伝えたところ、1日の訪問場所数は減ってしまいましたが、停車時間を15分とすることで利用者が増えました。

④取組むうえでの工夫について

- ・地域のニーズ情報の収集を行うにあたり、高齢者が集まるイベント、関係団体の活動情報、第2層協議体等を活用することで、目的に沿ったニーズ調査を行うことができました。
- ・商工課と民間事業者の協働、地域のニーズ情報の提供等、お互いの長所を活かし合えたことで問題の改善を図ることができました。
- ・事務局等も関わることで、利用者の声をより実態に沿って民間事業者に提供することができました。

事例④

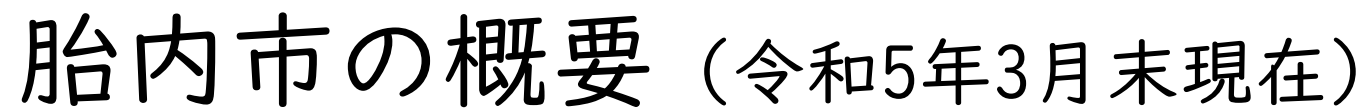
新潟県胎内市

他分野連携に関する事例紹介

～消費者行政との連携について～

令和6年3月15日（金）

福祉介護課地域包括支援センター係



胎内市



平成30年11月

消費者被害防止に関わる関係機関会議を開催

参集者

- ・ 警察署
- ・ 地域包括支援センター（4 か所）
- ・ 商工観光課
- ・ 福祉介護課

⇒地域包括支援センターで実施している消費者被害防止活動実施状況を共有

- ・リーフレット等を用いて、消費者被害防止のための学習会を年8回程度開催。
- ・認知症講演会にて、ポスター掲示やリーフレットを設置して啓発活動を実施。
- ・数年前までは、寸劇を用いて啓発活動を実施していた。

会議の中で、地域包括支援センターが 感じていることを伝えました

- ◆地域包括支援センター4か所で協力して啓発活動を行うことができた。
- ◆地域包括支援センター以外の機関とも連携していきたい!!
- ◆数年間、実施できていない寸劇をリニューアルし、それを用いて啓発活動を実施したい!!



関係機関で協力して新しい寸劇を作ろう!!

これが胎内市における消費者被害防止の
連携のはじめの一步でした！



会議後は寸劇披露に向けてスピード感を持って進めました

■平成30年11月～平成31年1月 台本作成

警察署が原案を作成し、地域包括支援センターで方言を入れ込んで完成させました

■平成31年2月～3月 寸劇練習

寸劇の練習を通して一体感が生まれ、練習の場で情報交換を行うようになっていきました



3月 寸劇完成お披露目会

胎内市の介護予防の拠点施設にて地域住民向けに実施

→以後、台本をリニューアルしながら、継続して年8か所程度の地域で寸劇を通じた啓発活動を実施



寸劇の様子

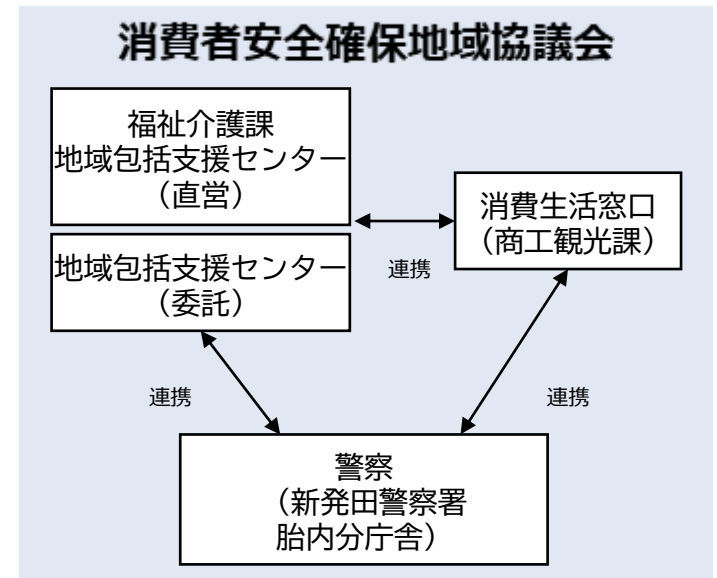
地域住民に楽しんでもらえるよう毎回熱演です！
私たちも楽しんで取り組んでいます！



連携のメリット

- ・消費者安全確保地域協議会に位置づけたことで、商工観光課からの情報提供がスムーズになった
- ・消費者被害以外の課題も抱えている方へチームでアプローチできるようになった
- ・消費者被害以外の業務でも連携がスムーズになった
- ・気軽に相談できる雰囲気ができ、早い段階から互いに情報共有できるようになった

互いに気軽に相談できるようになったことが一番のメリットだと感じています！



関係者の声

- ・これまで敷居が高いと感じていた警察署の方と気軽に情報共有ができるようになった（地域包括支援センター）
- ・福祉課題を抱えている方の関わりに困ったときに、地域包括支援センターに相談できるようになってありがたい（警察署）
- ・同じ庁舎内にあるのに連携できないもどかしさが解消できて嬉しい（商工観光課、福祉介護課）
- ・これまで福祉介護課を介して情報交換していたが、それがなくなり業務負担が軽減された（福祉介護課）

住民の声

- ・一方的に話を聞くよりも、寸劇を見たほうが分かりやすい
- ・警察や地域包括支援センター、市が一体となって取り組んでいることを知って安心した
- ・寸劇の内容を、見たことがない友人にも伝えたい

取り組む上での工夫

- ・もともと地域包括支援センターで実施していた寸劇を一緒にやろうと提案することで、関係者の連携のハードルを下げることもできた
- ・寸劇という実施する側も住民も楽しめる取組を中心にすることで、楽しく継続できている
- ・三者の連携基盤を消費者安全確保地域協議会に位置付けることで、継続的な仕組みとした



最後に... ✨

様々な機関が集まって寸劇というツールを用いて連携するプロセスがとても重要だと感じています

今後も楽しく連携できるように働きかけていきたいです！



胎内市の鳥 ヤマセミ



胎内市の花 チューリップ



胎内市の木 松 やまぼうし

事例⑤ 長野県栄村
農村まちづくり



「できることアイデア出しワークショップ」との出会い

令和元年～ 長野県伴走型支援事業を受ける

主に地域ケア会議をどのようにしていけばよいか、県の担当職員とともに有識者の方や県内の先進地職員による年数回の支援を受けた。



気づき

- それぞれの人、立場、関係でできることって多様すぎる
- 地域の人が幸せに暮らすことがでいるようにしたい

地域はどうか

- 10年前に高齢者人口割合が生産年齢人口割合を超え、高齢化とともに既存の資源の維持が難しくなるのでは？
- 地区のつながりは強く、誇れる強みだが、年3%前後の人口減少があり、地域の互助機能の衰退が否めないのでは？
- 地域においては、地区内のつながりは強いが、他地区とは垣根があるように感じる。



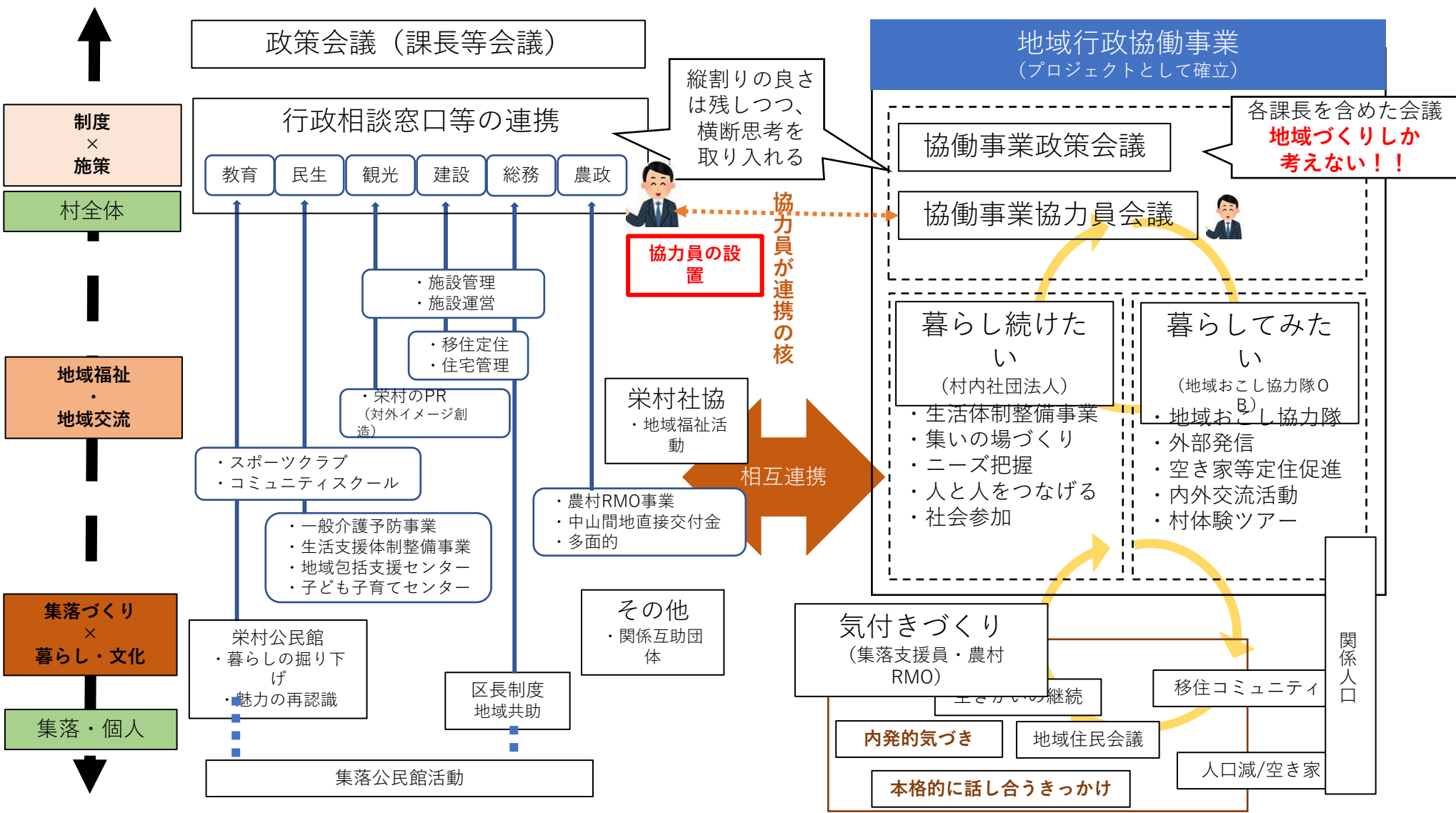
自分や家族、地域のことをみんなで考えることができる機会があればいいな

役場はどうか

- 1 人が多業務を担っている状態で、課内や他部署との共有がなかなかできていないのでは？
- トップダウン、課題解決型思考が常態化しているのでは？
- 上位計画に地域づくりの重要性が書かれているけど、政策的にまとめる部署がないな



地域のことを業務や部署を超えてみんなで考えることができる機会があればいいな



取組の成果



取組の成果



取組の成果



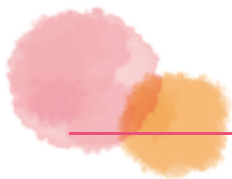
取組の成果



- 理事者及び課長等会議で、横断連携に基づく地域づくりを提言
- 目的の共有による住民ヒアリング、地域ケア会議の協働実施により、地域活動の活発化、マンパワー不足の解消
- 分野を超えた地域共生社会の具現化
- 業務や部署の垣根を低くし、相談し合える環境づくり

取り組むうえでの工夫

- 各種計画、予算管理等を担う総務課（企画・財政・人事等）が統括を担う仕組みにより、協働事業の恒常化と他制度の活用を検討できるようにした。
- 地域で幸せに暮らすことに対し、事業の実施が目的にならないよう「誰のために、何をするのか、したいのか」を住民ヒアリングや地域ケア会議により具体化し、横断的に共通の地域づくりをしていく。



事例⑥

北海道池田町

商業分野との連携事例

社会福祉法人 池田町社会福祉協議会
事務局長 佐藤 智彦

池田町の概要

◆ 池田町は十勝管内で、最も高齢化率が高い町です



北海道
十勝支庁
池田町



池田町、北海道中川郡

池田町の特徴
高齢者も減少

池田町の概要 (令和5年3月現在)

②人 口	6,089人(△152人/R04)
③65歳以上	2,699人(△47名/R04)
75歳以上	1,595人
④高齢化率	44.33%
⑤後期高齢化率	26.19%
世帯数	3,251世帯

池田町の特徴

- ・北海道で最も日照時間が長い
- ・38.8℃(2019)最高気温
- ・-41℃過去最低気温
- ・十勝ワインを自治体で製造
- ・ドリカム吉田美和の出身地
- ・介護予防(いきがい対策)

基準月額5,186 円(第8期保険料)
 基準月額5,500円(第7期保険料)
 △314円(全道1位下げ幅)
 基準月額5,202円(第9期保険料)
 +16円

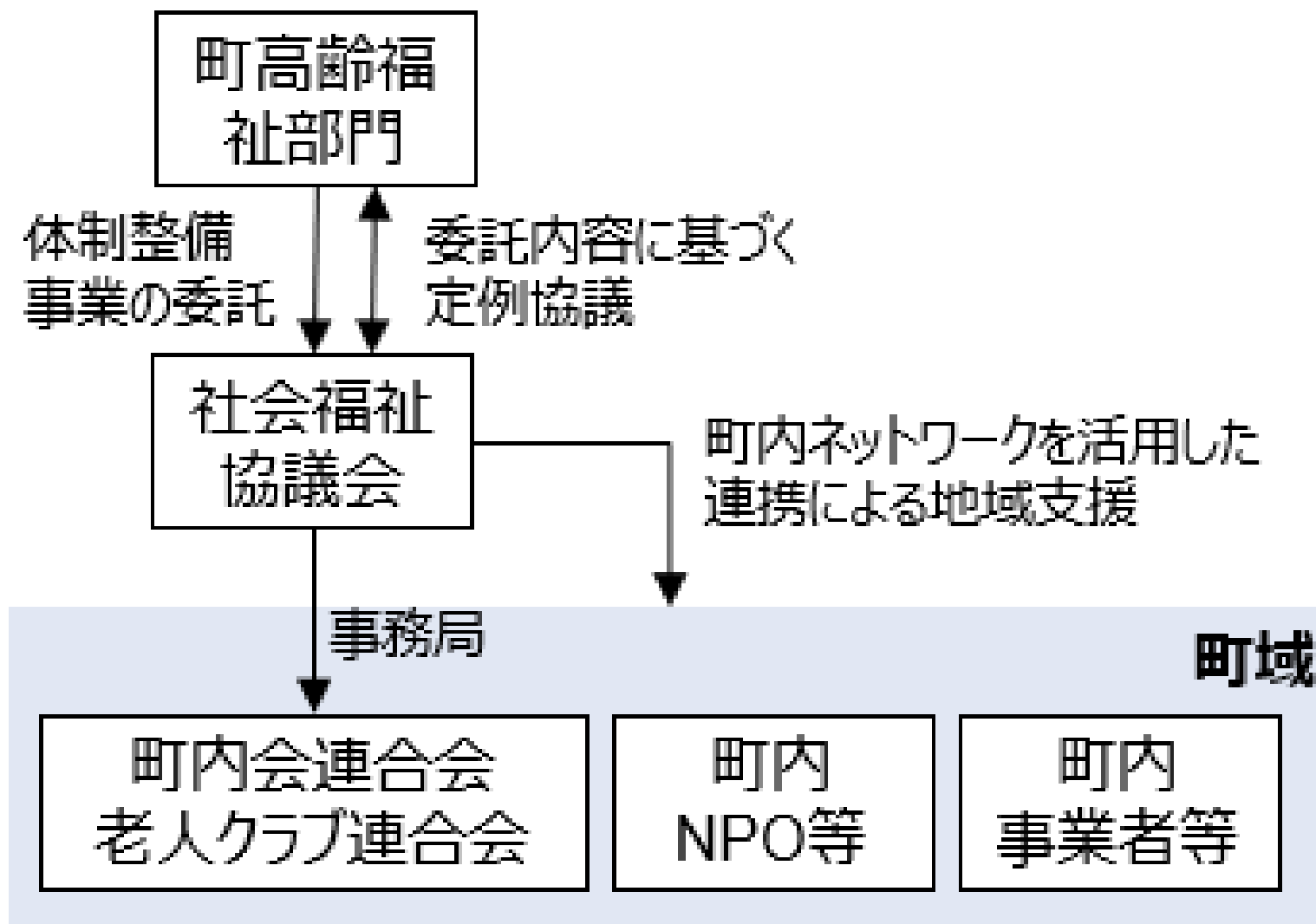


池田町の生活支援体制整備事業の特徴

- ①介護予防
- ②交通の確保
- ③高齢者同士のたすけあい

住民主体で拡大していけるよう伴走支援を継続

仕組化



生活支援コーディネーターが日常的に地域アセスメント

介護予防・生活支援体制整備調整会議

【構成メンバー】

福祉課長・課長補佐・高齢者支援係長、包括支援係長
生活支援コーディネーター

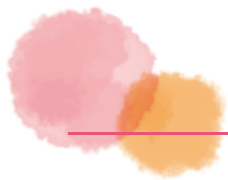
【開催方法】

毎月1回 定例で協議の場を持つ(1時間程度)

【会議の内容】

活動状況の報告を受け、事業の進行状況を確認し、情報の共有や意思統一を図る。

協議体は、固定ではなく、生活支援コーディネーターが参加する会議をみなし協議体とする。



- ・平成18年度から住民主体の活動に取り組むために「ふまねっと運動を導入」
団体の立ち上げ支援と伴走支援によって通いの場を全町に。

社協と町内会連合会とふまねっとサポーターズいけだとNPO法人ふまねっと
(老人クラブ連合会と商工会(ワインスタンプ会)とワインタクシー)が連携

- ・平成25年度地域介護予防支援事業交付金・・・町補助により1次予防事業拡大

//

←町が財源補助

- ・平成28年度 LOREN支えあいパートナー事業を老人クラブ連合会の中に立ち上げた
チケット制による高齢者同士の助け合い活動

社協と老人クラブ連合会と商工会(ワインスタンプ会)が連携 ←町が研修費用等財源補助

- ・平成30年度町補助の拡大によりマックスバリュ2階店舗借上げ0次予防に発展

社協とマックスバリュ池田店(イオン北海道)が連携

←町が賃料等財源補助
(イオンから来店ポイント提供)

- ・令和3年度に町と町社協が一体となって地域福祉計画を策定(令和4年度～8年度迄)
令和5年度～移動課題について住民主体の取り組みについて検討中。

社協とワインタクシーが連携(支え合いバス、くもん脳トレ、ふまねっとボラ移送)

←町が運送費用等財源補助

住民意識の醸成

このまま高齢化と人口減少が進んでいくと、10年後、20年後はどんな地域になっているのでしょうか。

高齢化と人口減による担い手不足をどのように乗り切るか

現象

人口が減っていくということは、福祉専門職の数も減っていく。地域資源も減少していく。現象が先行している地域に対処法を学び、我が町のスタイルを作り上げる。

課題

福祉など、様々な課題は、専門職だけが担うということだけでは対処できなくなる。地域の課題も変わっていく。課題解決のために必要な地域資源（例えばスーパー等）がある。地域住民にとっての利便性を高める等の工夫がいる。

無くなってしまったら、新しく作ることは困難。

住民が 果たせる 新たな役割

住民ができるだけ早い時期から健康づくりに取り組み、高齢期にも社会参加できる環境をつくる。（役割を持ち続けることを生きがい）

→住民を地域資源とつなげることで町全体を活性化。

具体的に

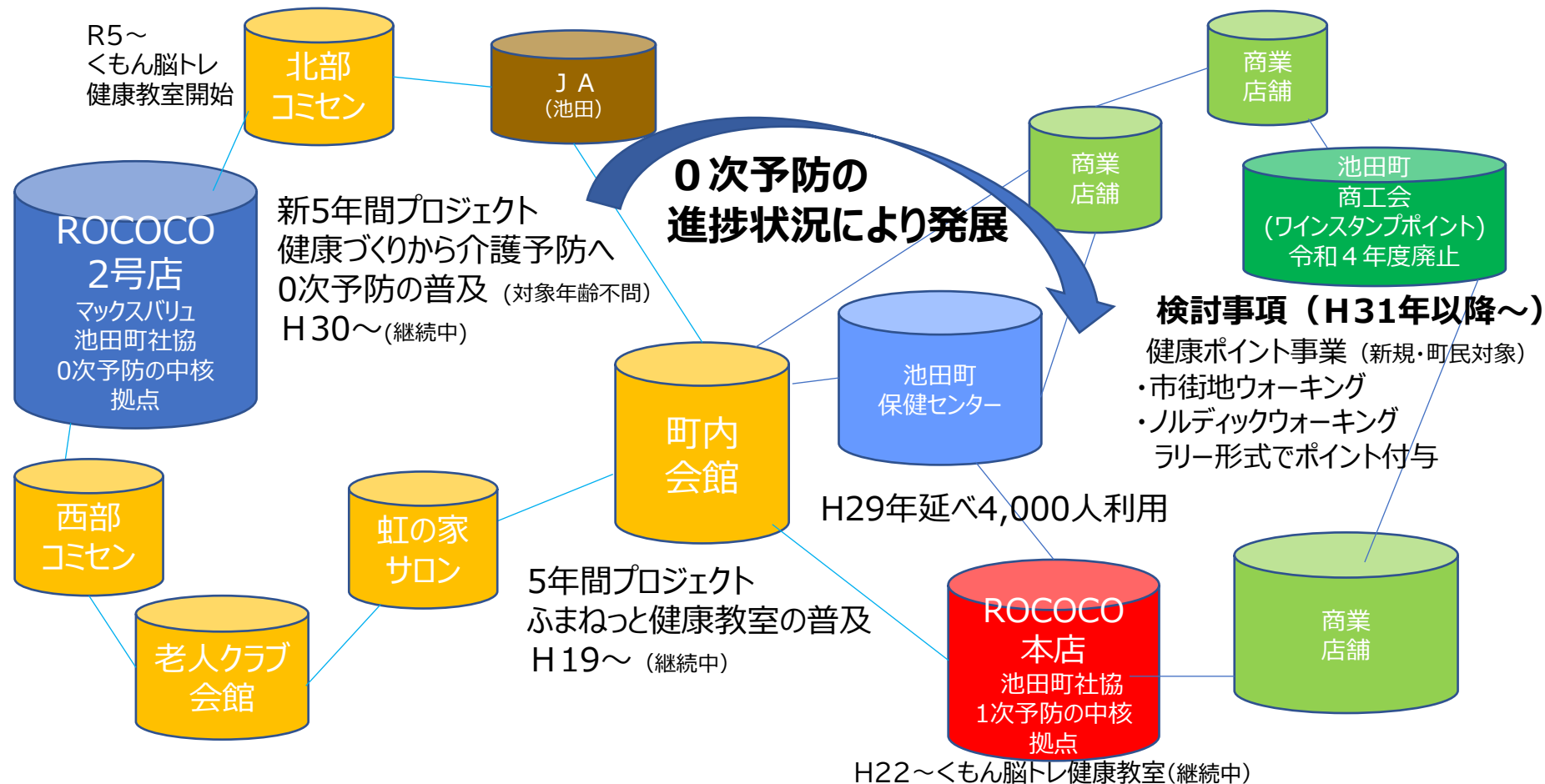
池田町の一部の住民は、手に手を取り合って健康寿命を延ばすことに取り組むと決めた。地域全体に広げていくことに、平成18年から少しずつ取り組んできた。

平成30年度からは新5年間プロジェクトを立ち上げ、健康づくりから介護予防までを民間活力を活用し、広域地域交流を促進しつつ町全体の活性化へとつなげよう。

健康づくりから介護予防を目指す0次予防を池田町全域へと拡大 (関係者がWINWINの関係で)

意識の醸成 元気な高齢者を増やすことで、町に出る機会を増やし町全体を元気にする。

- ・高齢者は、高齢期に新たなことを始めたり、仲間と知り合うことでいきがいにつながる。
- ・参加ポイントのワインスタンプポイントを集めてもらい、町内店舗での買物につながって欲しい。



商業分野との取組事例①

マックスバリュの2階(ROCOCO2号店)はコロナ後に利用増加



老人クラブ連合会と社協と観光協会(デリバリー参加事業者の会)が連携

コロナがきっかけ

第2回町内業者応援!コロナに負けるな友愛訪問活動(令和3年度～継続)

たいせつな友愛訪問活動



コロナで減ったふれあいの機会を減らさないため! 安否確認が重要です!(合計3回)

②1回目事前訪問 / ⑩2回目 弁当配布訪問 / ⑪3回目 アンケート回収訪問

来年度以降より良い事業に育てるために大切な資料になります!

◆事業目的◆

- (1)老人クラブ会員間の交流と安否確認
- (2)コロナで疲弊している事業者応援
- (3)高齢者の食の確保の一つの方法として高齢者も事業者も地域住民も関わりすべての人にメリットが生まれ、結果として町全体の活性化につなげたい。
- (4)8社が事業協賛に賛同し、協力してくれたことに感謝し、お互いに協力し知恵を出し合い、他のどこでもやっていない新たな事業にチャレンジし成功を目指す。
▽事業は毎年継続。今後は会員外も利用できないか検討。
新規入会のきっかけにしたい。

ながいき 弁当 (800円税込)

池田町老人クラブ連合会

○△事業者(8社参加)

※8社バランスよく利用してもらうことが条件なので、自由に種類は選べません。

例 和食系セット(A社+B社)
洋食系セット(C社+D社)
中華系セット(E社+F社)

1社で作れる食数に限りがあるので、食数によって、上記セットを組み合わせ、相談して注文する必要があります。

⑥注文確定

デリバリー
参加事業者の会

⑤利用できる事業者の
弁当及び食数を提案
(次年度は注文して
いない業者の弁当を
選択してもらいます。)



⑦注文確定後実施日及び食数を報告(実施後請求書は老人クラブ連合会へ)

① 会員数に
応じて選択できる
弁当メニューを
送付します。
(クラブによって
違います。)

単位
老人クラブ

③ 実施日、
決定した弁当
のセットと
食数を報告

池田町
老人クラブ
連合会事務局
食数×400円助成

⑨ 実施日に
食数×400円
(単位クラブ負担分)
を老連に支払い
弁当を受け取る

⑧今年度はデリバ
リー参加事業者の会
負担によりタクシーで
実施日にふれあいセ
ンターへ弁当を配
送してもらいます。

④単位クラブの注文したいセット、食数を連絡



観光協会職員 社協職員 老人クラブ役員連携の様子



商業分野との連携事例：北海道池田町

基礎情報	人口	6,294人
	高齢化率	43.6%
	要介護認定率（調整済認定率）	20.1%（17.1%）
	1人当り給付費 ※月額	18,337円

- 地域のニーズに即した多様な事業によりまち全体の活性化と、介護給付費の大幅削減を実現
- 地域で強力なネットワークを持つ社協と町との委託内容に定例会議を含め共有の場を仕組化

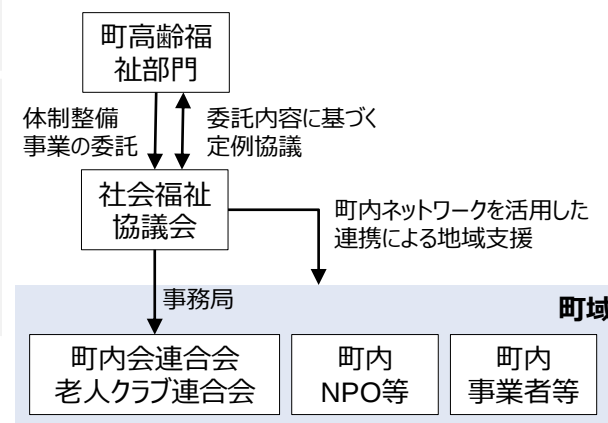
取組の特徴	当初の問題意識	・ 社協が平成18年度から住民主体の活動に取り組むために「ふまねっと運動を導入」し、健康づくりから介護予防を目指す0次予防の取組を実施してきた ・ 町内会連合会や老人クラブ連合会の事務局をしている社協に、H27に町から生活支援体制整備事業を委託 ・ 町内では大型スーパーの2階テナントが撤退し、広大な空きスペースが生じていた
	対策	・ 社協が地域のネットワークを活かし、地域のNPO・商店会・支援組織等との連携の中心となり、ふまねっと運動の拡大やコロナ禍での弁当開発等様々な取組を実施 ・ スーパーの2階の大規模スペースを地域団体が借受け、ふまねっと運動などのさまざまな0次予防中核拠点として活用
	成果	・ スーパーの2階スペースに広大なスペースの拠点ができたことで参加者が倍増 ・ 現場のニーズを踏まえて多様な新しい事業が創出されている。 ・ 結果として2012年度から2018年度にかけて介護給付費が61%削減
	工夫	・ 地域の高齢者コミュニティに入り込んで現場をよく知る主体（社協）が連携のハブになることで、事業が強力に推進されている ・ 社協へ生活支援体制整備事業を委託する際に、委託内容に介護予防と生活支援との定例の調整会議を入れたことで、情報共有や業務調整が仕組化された。 ・ 町は地域の実情に合わせた補助メニューを整備して社協の活動を支援



ふまねっと運動の様子
(池田町社会福祉協議会より)



介護予防教室の様子
(池田町社会福祉協議会より)



- 活用制度
- ・ 研修費用財源補助
 - ・ 賃料財源補助
(いずれも町の補助)

- 連携組織
- ・ 池田町
 - ・ 池田町社会福祉協議会
 - ・ 町内会連合会
 - ・ ふまねっとサポーターズいけだ / NPO法人ふまねっと
 - ・ 地域の大規模スーパー